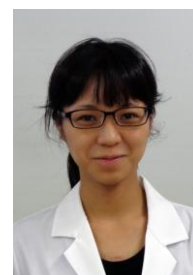


## 和歌山病院臨床実習レポート



長澤 美穂

和歌山県立医科大学の呼吸器内科での臨床実習期間において、9月27日から9月28日まで和歌山病院にて実習をさせていただく機会があり、泊まりで2日間、大変お世話になりました。5回生になって臨床実習が始まってからはほとんどの実習時間を医大の病棟にて過ごしていたため、今回の実習は大変新鮮な気持ちで臨むことができました。1日目は和歌山病院の副院長である駿田先生に結核についての講義をしていただきました。和歌山病院は県内で唯一の結核入院施設でもあり、病棟の入院施設も特殊な工夫がされていて、説明していただくたび納得し驚くことも多々ありました。医療者の感染防御や結核菌の感染経路についての理解がより深まったように思います。また、技師の先生に呼吸補助機器について教えていただく機会があったのですが、その時に実際に経鼻カニューラで酸素を吸う体験をさせていただきました。何気なく普段病棟で患者さんが経鼻カニューラや酸素マスクを付けているのを見ていましたが、実際に自分が使ってみると、酸素の流量をあげられると鼻が乾燥して痛いことや息を吐くのが大変なことなどがわかりました。カルテや患者さんを眺めるだけでは決してわからないことであり、この機会に知ることができて本当に良かったと感じています。

その後、和歌山病院の院長である南方先生に2日間にわたり胸部レントゲン写真の読影の講義をしていただきました。読影については基本的なことは理解していたつもりでしたが、南方院長の読影の考え方についてのお話を聞いて自分の知識の浅さを痛感しました。レントゲンの読影は読むべき所見が多く煩雑で難しいものと思っていましたが、それをレントゲンの原理から見るべき臓器まで非常にクリアに解説していただき、大変勉強になりました。影絵の話とブロンコ体操は特に印象深く、きっと今後忘れることはないと思います。2日間と短い期間ではありましたが、多くのことを学ぶことができました。今回の実習で得た知識と経験を今後生かして頑張っていきたいと思います。

講義をして下さった先生方、案内をして下さった事務の方、特に南方院長におきましてはお忙しい中お食事の場を設けてお話を聞かせて下さり、大変お世話になりありがとうございました。